地水火風

牧野 恒一

中国天津市の危険物保

発生した。

当初、天津港の埠頭に

近い化学薬品倉庫で火災

が発生し、消防隊が消火

活動にあたっていたとこ

ろ、火柱とキノコ雲が立

ち上る大爆発が2回(4

回という報道もある)連

続して起き、消防隊員な

り、並みの危険物事故

では考えられない惨状

だ。今回は、この事故を

概観するとともに、危険

物の保管に関する規制に

ついて考えてみたい。

天津大爆発と危険物災害対策

【天津の爆発事故】
8月12日深夜、天津市の港灣地区(滨海新区)にある国際物流センターの危険物専用の倉庫で、死者135人・行方不明者38人、負傷者79人(いずれも8月25日現在)とされる大爆発が

発生した。当初、天津港の埠頭に近い化学薬品倉庫で火災が発生し、消防隊が消火活動にあたっていたところ、火柱とキノコ雲が立ち上る大爆発が2回(4回という報道もある)連続して起き、消防隊員など多数の方が死傷した。今回は、この事故を概観するとともに、危険物の保管に関する規制について考えてみたい。

【日本ではどうか】
日本では、危険物は消防法で規制されている。また、都市計画法の用途地域と消防法の危険物の規制等は建築基準法の集積規定と連動しており、危険物等の種類に応じた

の厳しい規制を守らなければならぬ。貯蔵する危険物の量に上限はないが、技術基準に適合するだけでなく、公共の安全の維持又は災害の発生の防止に支障を及ぼすおそれがないものでなければ許可されない。危険物の種類と許容量は、消防機関が全て把握している。危険物施設で漏洩、火災、爆発等が発生した場合には、消防隊はその危険物の種類

【高度経済成長には、それに合った危険物保安体制が必要】
現代社会は様々な種類の大量の危険物に依存して成り立っている、とも言える。問題は、どんな

性状の危険物がどこに、どのくらい、どのように貯蔵され、取り扱われているか、ということだ。これらの要素が齟齬を来すと、天津のような大爆発や環境汚染は避けられない。

パオキサイドが爆発し、消火活動中の消防隊員19名が殉職)これで、よくオリンピックが開催できたといえるような事態だったが、その後、規制強化が次々に行われ、あの阪神・淡路大震災や東日本大震災も、想定内の被害で乗り切ることができたほどの水準になった。今にして思えば、これらの事故が、高度経済成長と危険物保安体制との調整を促したと言えそうだ。ネットで、アジアの火災や爆発をモニターしていると、経済が急激に発展するようになると、それに伴って危険物災害が増えるようになるように見える。日本ではあまり報道されていないが、中国の危険物災害や化学災害は目立っている。危険物の質や量が急増しているなら、それに合った規制体系と取り締まり体制が必要だということだ。それは、急速な発展を続ける、アジア全体にも言えるのだと思う。

料で、可燃物と混ぜるなどの状況次第で、熱や衝撃により爆発する。何らかの原因で火災が起これば、これらの物質が熱か衝撃を受けて連鎖的に爆発したと考える方が自然だろう。もちろん、その引き金が禁水性物質に放水したことだった可能性はある。

【何故大爆発が】
当初、消防隊が多数死傷し、放水していたら爆発すれば、あれだけのクレーターができたとして防除はその危険物の種類

【「何故大爆発が」】
当初、消防隊が多数死傷し、放水していたら爆発すれば、あれだけのクレーターができたとして防除はその危険物の種類

【「何故大爆発が」】
当初、消防隊が多数死傷し、放水していたら爆発すれば、あれだけのクレーターができたとして防除はその危険物の種類

【「何故大爆発が」】
当初、消防隊が多数死傷し、放水していたら爆発すれば、あれだけのクレーターができたとして防除はその危険物の種類

【「何故大爆発が」】
当初、消防隊が多数死傷し、放水していたら爆発すれば、あれだけのクレーターができたとして防除はその危険物の種類